

風間浦村小学校統合計画

平成 24 年 5 月

風間浦村教育委員会

風間浦村小学校統合計画

はじめに

本村では少子化により、下風呂小学校、易国間小学校及び蛇浦小学校のいずれの学校でも児童数の減少が進み、村内にある三小学校の全てで複式学級が生じています。

このため、三小学校の統合による複式学級の解消が、これまでの本村の重要な教育行政課題となってきました。

平成 22 年 12 月には、三小学校 PTA 会長及び保育所父母の会会長が連名で、『早期に、統合小学校を風間浦中学校付近に新築又は風間浦中学校に併設していただきたい。』という趣旨の「小学校統合に関する要望書」を、村長及び議会と教育委員会に提出いたしました。

平成 23 年 12 月にも全く同様の趣旨の要望書が、村長及び議会に再び提出されています。

このような中で、教育委員会は、小学校の統合に向けた検討をしていただくため、平成 24 年 3 月に風間浦村小学校統合検討委員会を設置し、三小学校の統合の具体的な方策について諮問を行いました。

検討委員会は、3 回の会議を開催し、児童数の減少に対応できる教育環境の整備、複式学級の解消、健全な社会性の育成、児童に安全でより良い教育環境を提供していくために真剣に検討をされ、平成 24 年 4 月 5 日、検討委員会宮古勝利委員長から風間浦村教育委員会佐賀敏一委員長に答申がされました。

教育委員会は、この答申を受け協議した結果「子どもの最善の利益を優先的に考え、できるだけ早く対処することが必要」との結論に達し、このほど「風間浦村小学校統合計画」をお示しできることになりました。

風間浦村の将来を担う児童の健全な教育のため、計画の実現に向けて一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

はじめに	1
1. 背景	3
(1) 少子化と複式学級	3
(2) 学校の規模	3
2. 学校統合の目的	4
(1) 子どもたちのために	4
(2) 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成	5
(3) 指導体制の整備	5
(4) 効率的な教育行政の推進	5
3. 小中連携教育の教科の推進	5
(1) 小中連携教育の必要性	5
(2) 小中連携教育を進めるために	6
(3) 新統合小学校の設置形態	6
4. 統合方針	7
(1) 統合対象校	7
(2) 統合時期	7
(3) 校舎	7
5. 統合にあたっての基本的配慮	7
6. 小中一貫教育を目指して（小中一貫教育のメリット及び教育効果）	8
おわりに	9
資料	10

1、背景

(1) 少子化と複式学級

風間浦村では、少子化により下風呂小学校、易国間小学校及び蛇浦小学校のいずれでも児童数の減少が進み、全ての小学校で複式学級が生じています。

今後も各校とも3～4学級で推移する見込みです。

しかし、三小学校が統合すると、当分の間は単式学級での学校運営が可能となります。

さらには、小学校統合により、小、中ともに1村1校になると、小中連携教育の強化が期待できます。

また、一貫教育の実現も視野に入ってきます。

(2) 学校の規模

一般的には小規模校（本村の三小学校は、過小規模校あるいは極小規模校）では、次のようなメリットとデメリットがあるといわれています。

メリット	デメリット
①行き届いた指導が受けられる。 ②学校が家族的な雰囲気である。 ③学校では一人ひとりの児童の活躍する場が多い。	①集団の中で各自の役割や位置付けが固定化し、健全な社会性が育ちがたい。 ②大勢の前で発表したり、意見や思いを言ったりする機会が乏しくなり、表現力やコミュニケーション能力の育成が難しくなる。

- ③切磋琢磨することが少なく、いい意味での競争心、向上心を持たせることが難しくなる。
- ④スポーツ少年団活動等チーム編成が困難になり、活動が限定される。
- ⑤複式学級の場合、担任は2学年分の教材研究が必要などの負担が大きい。
- ⑥教職員一人あたりの校務分掌の負担が大きくなる。

2、学校統合の目的

(1) 子どもたちのために

風間浦村教育委員会では、風間浦村の将来を担う子どもたちを育む教育環境を整備し、学校教育のさらなる充実を図るため、過小規模校あるいは極小規模である村内の三小学校を統合し、村内の児童を一校にまとめることにより、複式学級の解消に努めます。

統合後は、子どもたちのために、どうすれば最大の教育効果を上げられるかを基本課題に置き、小規模校の良さを引き出して、地域に密着した活力のある学校づくりを目指します。

(2) 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

子どもの成長課程においては、集団の中で生活できる力を身に付けていくことが重要であり、より多くの児童との交わりや人間関係を広げる環境づくりが大切です。

その効果として、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成が期待できます。

(3) 指導体制の整備

教育効果を高めるため、統合に伴う指導体制の整備が必要です。

複式学級が解消されることで、教職員の適正配置が可能となり、単学年体制での発達段階に応じた、より適切な指導ができます。

(4) 効率的な教育行政の推進

統合を進めることにより、施設の維持管理費の節減や備品購入費の集約が図られ、また、ALT（外国語指導助手）の集中配置などの効率的な教育行政の推進が期待できます。

3、小中連携教育の強化の推進

(1) 小中連携教育の必要性

思春期を迎える小学校高学年から中学校にかけては、心身の成長や変化が一生のうちで、最も大きな時期であるとともに、精神的に不安定な時期でもあります。

ともすれば、それが、いじめ、不登校の増加や学力の低下傾向になって現れる心配があります。

そこで、小学校から中学校の間にある段差（「中 1 ギャップ」ともいわれる。）を適切なものとし、それを乗り越えるために小中学

校が互いに連携をとった教育を進めることが重要となります。

小中連携教育を強化することで、個を生かし生きる力を一層はぐくむことができます。

(2) 小中連携教育を進めるために

児童生徒が望ましい学校生活を送るためには、小中学校の教師が互いに生徒指導面あるいは学習面での情報を共有し合い、共に児童生徒を育てていこうとする強い意識をもつことが出発点となります。

また、児童生徒が共に活動し、体験を共有する機会を意図的、計画的につくることによって、児童生徒の人間関係づくりを促すことが大切です。

そして、新統合小学校と風間浦中学校のそれぞれ学校の現状を生かした具体的な方法によって連携し、9年間を見通した教育課程を実践可能な範囲で編成することが望まれます。

(3) 新統合小学校の設置形態

小学校統合により、小、中ともに1村1校になると小中連携教育の強化が期待できます。

新統合小学校の設置形態としては、風間浦中学校と併設する統合新校を設置することが最も望ましいと考えられます。

そして、今後の本村の学校教育は、「小中併設」という有利な条件を活かして、小学校と中学校の単独設置では実施することが困難な「連携教育」を強化していくことを目指します。

4. 統合方針

(1) 統合対象校

本村の全小学校である下風呂小学校、易国間小学校及び蛇浦小学校の三小学校を統合対象校とし、本村一小学校とします。

(2) 統合時期

遅くとも平成 28 年度頃の統合を目指します。

(3) 校舎

風間浦中学校と併設した統合新校の設置を目指します。

5. 統合にあたっての基本的配慮

- ① 統合新校の規模は、本村の財政状況に見合ったものとします。
- ② これまで、小学校が地域の文化的施設としての役割を果たしてきたことに配慮し、統合後の旧校舎及び旧校地の有効的な利用方法を関係者と協議する必要があります。
- ③ 児童の不安や動揺を最小限にするために、教員配置等様々な面で最善の配慮をします。
- ④ 児童の通学の安全確保のため、バス通学の再編と有効活用を図るとともに、安全指導教育を徹底します。
- ⑤ 教育課程や学校運営・教育方法などは、関係する学校間の協議結果を尊重します。
- ⑥ 各校で実施されている特色ある教育を引き継げるよう配慮します。
- ⑦ 各校の歴史や伝統を、何らかの形で残し、継承できるよう配慮します。

6. 小中一貫教育を目指して（小中一貫教育のメリット及び教育効果）

風間浦中学校と併設した統合小学校の設置が実現すれば、同じ敷地内で、小学校1年生から中学校3年生までが共に学校生活を送れる施設一体型の一貫教育が可能となります。

一般的に小中一貫教育のメリット及び教育効果は、次のようなことが言われています。

- ① 小学生が、中学生の姿に将来の自分の具体的な目標を持つことができます。
- ② 中学生が、自分の役割や立場を自覚し、自尊感情を高め、自然に自分たちの行動をよりよいものにできます。
- ③ 小学校と中学校の違いにうまく対応できない「中1ギャップ」の解消に向けた環境が整います。
- ④ 小中学校9年間の成長段階を見通した指導方法により、子どもに合った教育を展開できます。
- ⑤ 小学校のきめ細やかな授業と、中学校の教科の専門性の高い授業が融合し、授業の質が高くなることが期待されます。
- ⑥ 小学校教員と中学校教員が交流し、互いに学び合うことで、指導力の向上が期待できます。
- ⑦ 小中学校間の子どもの引き継ぎがスムーズになり、一人ひとりに合ったきめ細やかな指導が期待できます。
- ⑧ 特別な支援や配慮が必要な子どもへの指導について、より手厚く、より安定して行えるようになります。

おわりに

この教育委員会が策定した「風間浦村小学校統合計画」は、本年 4 月、「風間浦村小学校統合検討委員会」よりいただいた答申に基づき、今後の児童数の動向や社会状況の変化などを踏まえ策定しました。

現在、むつ市や東通村などでは、学校教育においては小中一貫教育を実施しています。

小中一貫教育とは、小学校と中学校が力を合わせて義務教育の 9 年間の連続性を強化して行う教育です。

導入理由の一つは、現行の義務教育の体制の下、中学校入学後にいじめや不登校が急増したり、学力がついていけない子どもが増えたりする「中 1 ギャップ」と呼ばれる問題が存在し、これは全国的な傾向で本村においてもその危険性は潜在します。

中学校は教科担任制で、授業の進め方なども小学校とは違い、そのギャップ（段差）を乗り越えられない子どもが多くなっています。

そこで「中 1 ギャップ」に象徴される教育上の課題を克服し、子どもたちを健やかにたくましく育むために、小中学校の教員が協働する小中一貫教育が必要とされています。

一方、本村にある三小学校にはそれぞれの歴史と伝統があり、小学校に対する地域の思いや願いは大きいものがあります。

小学校は地域の文化の拠点であり、地域は学校を支えにしてきました。

しかし、児童数が激減し、三校とも複式学級を持つ過小規模校あるいは極小規模校であるという現状を看過することはできません。

地域から学校がなくなることは、地域の人々の思いや願いと逆行することになりますが、地域の理解のもと、児童の将来を最優先するという観点から、この計画を進めます。

子どもの最善の利益を優先的に考え、「現在」だけにとらわれず「未来」に向けての「風間浦村小学校統合計画」であることのご理解をお願いします。